



★「尾北教労からの提言と要請」の全文は、尾北教労のホームページからご覧になれます。
「尾北教労」で検索)

校長会との懇談会

子どもが輝き 教職員が健康に働ける学校を

校長会と尾北教労との懇談会が、2月14日に行われました。学校現場におけるさまざまな課題がある中ですが、これまで確認してきた次の4つの立場を大切にしよう話し合われました。

- 子どもの願いや心の痛みを真正面から受けとめる学校をつくる。
- 血の通った働きやすい職場をつくる。
- 保護者や地域としっかりと手をつなぐ。
- 教育という専門性と崇高な使命にふさわしい教員としての身分を保障する。

以下に、「尾北教労からの提言と要請」をもとにした懇談会の内容の要旨を紹介します。

(組は組合の略、校は校長会の略)

特別の教科 道徳

組：徳目ありきの授業では、きれいなこと、授業で終わってしまいがちになる。

授業を進めるにあたっては、「こうあるべき」の話し合いではなく、弱い自分を語ったり、失敗から考えたりするなど、本音が出し合える授業をつくっていくことが大切ではないか。

校：学習指導要領にもあるように、価値を自分のこととして感じたことを、更に考え深めていくような授業をしていきたい。

多様な考えが出し合えるような雰囲気づくりや学級づくりが大切である。

組：教科書や指導書とありの授業だけでなく、教員の自主性や創意工夫を尊重した指導方法や柔軟な資料の活用などができるよう、学年や校内研修の場などで気軽に語り合えるようにすることが大切だと考えるがどうか。

校：学級の実態や子どもの発達段階に応じて、他の教材を使ったり、他の推進校の事例を取り入れたりしているところもある。学年や校内研修の場などで、ともに学び合いながら授業づくりを考えていくことが大切である。

組：評価については、授業中の先生の言葉かけでも子どもは評価されることになる。しかし、実際には、子どもは、評価を気にするあまりに、先生の前でよい子を演じるのではないかと心配されるがどうか。

校：先生と子どもとの共感的な関係が大切である。他との比較による評価ではなく、個人の成長を重視していく。一定の期間を通して成長を見ていきたい。

組：記述式の評価をするにあたっては、活動の事実を記載し、内心の評価にならないようにする。また、教員の多忙化を招かないようにすることも必要だと考えるがどうか。

校：評価の記述は大変だが、文例を参考にするなど、すでに取り組んでいるところもある。市町で情報を共有しながら、組織的に負担軽減を考えていきたい。

小学校での 英語教科化

組：英語嫌いの子どもをつくらないために、教え込みではなく、楽しく分かる授業を創造していく。特に、文字の読み書きの学習は、小学生にとっては大きな困難を伴うので、無理をしないように進めるべきではないか。

校：音声によるゲーム的な活動などで十分慣れ、そこで学んだことをもとに、文字指導へと導くなど、無理のないように進めることが必要である。楽しく分かる授業を大切にしていきたい。

組：英語の宿題やテストなどの課題で、子どもに大きな負担を強いることのないようにしたい。教員にとっても、今までの教科に加え、英語の評価も通知表や指導要録に記載しなければならず、業務が増える。多忙化を招かないよう、評価の仕方を簡素化する必要があると考えるがどうか。

校：子どもの負担にならないようにしていきたい。評価の仕方については、国の指針が出ていないが、今後、検討していく必要がある。評価項目によっては、テストによらない評価方法も考えたい必要がある。

組：授業時数の確保については、現在の日課の中で無理なくできる工夫をする必要がある。夏休みや土曜日などに行うといった新たな負担増にならないようにしていきたい。

校：すでに、帯タイムの活用などで現在の日課の中で工夫をしながら実施しているところもあれば、学校によっては、時間を確保するために、高学年が、月曜日から金曜日まで、毎日6時間授業となっている学校もある。また、6時間授業の日でも、下校時刻を早めている学校もある。現在の日課で、下校時刻は変えないことを基本に、時間数確保の工夫をしていきたい。

組：小学校全校への英語専科教員の配置やALIT・NETの増員など、必要な条件整備について関係機関に働きかけるとともに、担任のみで行う際の負担軽減を図るようしていきたい。

校：自治体によっては増員しているところもある。学級担任の負担軽減に向け、今後も専科教員等の増員について関係機関に働きかけていきたい。

※裏面につづく

全国学力テスト

組：全国学力テストは、あくまでも「学力の特定の一部」を測定するものであり、市町村・学校別の成績公表や過去問題練習などのテスト対策で、学びがゆがめられたり、学校現場が振り回されたりしないようにすることが重要だと考えるがどうか。

校：調査で測れるのは、あくまでも学力の一部であり、競争のためのものではない。市町村間・学校間の競争や結果に振り回されることはよくない。また、テスト対策は必要なものとは思わない。

愛知県は、市町村別・学校別の結果を公表していない。この方向が継続されるよう校長会としても働きかけていきたい。

組：中学校英語調査については、学校現場の多忙化を招いたり、せっかく実施しても正確な学力が把握できなかったりすることから、中止を含めた見直しが必要だと考えるがどうか。

校：準備や実施で大きな負担となった。また、となりの生徒の声が聞こえてしまうなどの問題が生じたが、正確さをどのよう担保していくかが課題であり、検討していく必要がある。

多忙化解消

組：多忙化解消のために、教員、特に学級担任の持ち時間軽減が必要だ。そのために、次の内容に留意して改善を進めていただきたい。

ア 当面、授業の持ち時間数が、小学校週25時間以内（1日1時間以上の実務時間《空き時間》確保）、中学校週20時間以内（1日2時間以上の実務時間《空き時間》確保）となるよう改善を進めたい。

イ 教頭・教務主任・校務主任（学級担任以外）は、学級担任の実務時間（空き時間）確保につながるよう、少人数やPTAではなく、評価を含めた教科指導にあたること。

ウ 学習指導要領による学習内容や授業時数の増加に対応するため、専科教員を増やすこと。

校：持ち時間数を減らすことは多忙化解消に有効である。そのためには定数増が大切だと考えている。市町独自の取り組みで加配しているところもある。少しでも教員が補充されるよう要望していきたい。

組：職員の健康維持のため、定時退校できるように、さらなる業務の見直しを進めていただきたい。

校：定時退校日（ノー残業デー）は定着してきている。定時退校が気兼ねなくできるよう、学校行事の精選などの取り組みを進めていきたい。

組：パソコンによる業務が増えているが、情報漏洩対策などの理由で、学校に残って仕事をせざるを得ない状況がある。成績処理の時期には会議を持たないとか、午後の授業を減らす日を設けるなど、忙しい時期に合わせた柔軟な対応で、仕事ができる時間を確保していただきたい。

校：パソコンを利用し、より効率的なシステムにしていきたい。また、学校訪問の負担軽減がなされるなど、大きな改善が進んできている。働きがいのある学校環境にしていきたい。

組：朝部活の中止など、部活動のさらなる改善に向け、取り組みを進めていただきたい。

校：県や市町のガイドラインに沿って部活の軽減に取り組んでいる。犬山市で、朝の部活が中止になった。今後は、春の大会をなくす予定である。また部活の練習も、多くの中学校で、週当たり2日間は休みにになった。

組：作品募集に関わる業務は、本来の学校業務ではないため、請け負わないようにしていただきたい。

校：希望者のみの応募や、学校で審査や名簿作成をせず、直接送付するなど、各市町村や学校ごとで、負担軽減の取り組みが進められている。

組：職員が風邪などの病気やけがで休む際には、本人に療養休暇が取れることを伝えること。また、療養休暇に関する以下の内容を周知していただきたい。

ア 療養休暇は、1日や1時間単位で取れること。

イ ボーナスは30日未満、給与は40日未満なら、その処遇には影響がないこと。

ウ 1週間以内の休暇であれば、特に診断書は必要ないこと。

校：療養休暇については、取り方や必要な書類等の内容を、校長会を通じて各学校に伝えていきたい。

組：暴言や侮辱といったパワハラやセクハラが生じないようにすること。また、気持ちよく働くことができる職場づくりに向け、管理職がリーダーシップを発揮していただきたい。

校：教職員にとって働きやすい職場づくりに取り組みしていきたい。担任が一人で抱え込むことなく、悩みを気軽に話すことができる雰囲気づくりを進めていきたい。また、ハラスメントのない風通しのよい職場づくりをしていきたい。

勤務時間の適正化

組：時間外勤務の割り振りについては、まずは、管理職が「割り振り対象の業務」と「割り振りの日時数」をきちんと伝えていただきたい。

そして、日常で使う個人別の割振変更簿が設置されたことと使い方を周知し、全職員が自分の希望に合わせて割り振り

がとりやすくなるよう、適切に対応していただきたい。

校：時間外勤務の割り振りについては、割振変更簿の使用を含め、適切に対応していきたい。

組：在校時間記録の虚偽報告をなくすため、休日を含め、正確な記録の徹底と、その意義を全職員に説明するとともに、職員が正確に記録しているかどうかを、管理職の責任において確認していただきたい。

校：休日を含め、正確に在校時間を記録することが重要である。躊躇することなく、正確に記録してほしい。

組：本来、休日は勤務させないことが原則である。やむを得ない場合を除き、必要最小限にしていただきたい。

運動会や授業参観などで休日に出勤を命じたときは、健康と福祉を害することとならないよう、日頃の時間外勤務の割り振りを行うことで、早めに勤務の拘束を解いていただきたい。

校：週休日は健康・リフレッシュのために大切である。状況に応じて割り振り変更で対応することはできる。

組：休日における地域やPTAの行事への「ボランティア参加」をなくしていただきたい。やむを得ず行う場合でも、教職員にとっては勤務の一環であり、割り振りをしていたらいい。

校：まずは、休日に実施している、地域やPTAの行事を精選することが必要である。職員が参加した際には、内容によっては、校長判断により、割り振りで対応することは可能である。

組：「1年単位の变形労働時間制」を導入しないよう、関係機関に働きかけていただきたい。

校：先生方からも不安の声を聞いている。関係機関に働きかけていきたい。

